望月町文化財調査報告書　第12集

栃久保A遺跡

1983

東信土地改良事務所
望月町教育委員会

序

ここに昭和57年度の最後の発掘調査を終了し、望月町文化財調査報告書第12集として本書を刊行する運びとなりました。

本年度の調査は過去最高の件数にのぼっており、しかも県内において最高の件数でありました。これに対処するため、長期に亘る調査日数、労働力等が費され多くの方々の御指導、御協力を賜りました。埋蔵文化財発掘調査は各地で開発行為に伴ない盛んに実施されており、今や最高潮に達しているといっても過言ではありません。これらの調査の位置づけや構成は、あくまでも開発行為に対応するための事前調査であり記録保存でありますが、この行政調査の中からいかに学問性をも両立させ、地域史の組み立てとその文化的重要性を認識していくかが急務を要する問題ではないかと思われます。私たちが現在生活し、また社会的な活動をしていること自体が歴史の構成要因であるとすれば、私たちの築き上げた内容を未来に伝える義務があると思われますし、同様に過去の不明な社会を明らかにし、現在そして未来へと当然伝えていくべき責務を負っているのではないかと思います。急激な開発の波の中で、失なわれていく私たち先人の足跡の記録される部分はほんの僅かでしかありませんが、この僅かな記録が地域社会にとって、またこれからの社会にとっていかに重要であるかという認識も改めて考えてみなければならない時期に来ているのではないかと思います。

本調査に際し、顧問の森嶋稔先生はじめ調査員、作業員諸氏に多大なる御協力をいただきました。深甚なる敬意と感謝の意を表するものであります。

1983年11月

望月町教育委員会　教育長　佐藤初雄

例　　言

1．本書は、東信土地改良事務所の委託を受けて望月町教育委員会が実施した発掘調査の報告書である。

2．遺構の実測は、福島邦男と福島茂子、遺構図のトレース及び石器の実測は近藤尚義、同図の作成は福島邦男、拓本は佐藤敏と掛川四郎、土器の実測及び図の作成は矢島宏雄、佐藤信之、福島邦男が行なった。

3．原稿執筆は、遺構及び遺物を吉田稔と福島邦男が担当し、他の部分は福島邦男が行なった。

4．写真撮影及び図版の作成は福島邦男が行なった。

5．本書の作成業務は望月町教育委員会が行なった。

6．本調査の図面等の諸記録及び遺物は望月町教育委員会が保管している。

I　調査に至るまでの経過

栃久保Ａ遺跡は、春日尾崎遺跡・後沖遺跡と共に昭和57年度県営ほ場整備事業の施行に伴ない発掘調査を実施したものである。本来本遺跡は、春日尾崎・後沖の両遺跡と同様に、農家負担分を国庫補助対象事業として取り扱うべき性質のものであったが、東信土地改良事務所の工事設計変更に伴い、当該年度になって急拠発掘調査の依頼があり、単独の委託事業として対応したものである。したがって、農家負担分に対する補助金の交付を受けることができず、これによって町費の支出が伴なった。また昭和57年度は、個人住宅の造成及び住宅建設による真光寺第１号古墳、国道142号線バイパス建設工事による瓜生坂Ａ遺跡、宮久保Ａ遺跡、布施山寺Ａ遺跡、岩井遺跡、そして県営ほ場整備事業による２遺跡の発掘調査がすでに経過または予定され、さらに本遺跡の調査が加わったということで、後沖遺跡終了後の霜柱も立つ11月初旬より実施しなければならなかった。これによって、当該年度で作成すべき発掘調査報告書の業務に大きな影響を与えたことは間違いなく、したがって本報告書も今に至ってしまった。以下その内容を記述し、経過とする次第である。

「栃久保Ａ遺跡発掘調査の依頼」は、国道142号線バイパス建設工事に伴う調査が終了した７月であった。望月町福祉センターにて、東信土地改良事務所と望月町教育委員会とで話し合いを行なう。７月12日に長野県教育委員会文化課、東信土地改良事務所、望月町役場建設課、望月町教育委員会の立ち合いによる現地協議を行なう。８月２日「昭和57年度栃久保Ａ遺跡発掘調査について（届）」の提出、その後調査予定地の作物及び桑の木の撤去について、地主との交渉を行なう。10月23日に調査予定地の抜根及び表土剝ぎを行なう。11月４日から発掘調査を開始する。

II　発掘調査の構成

１．遺　跡　名　栃久保Ａ遺跡

２．所　在　地　長野県北佐久郡望月町大字春日字栃ノ久保

３．原因・目的　望月地区（春日）県営ほ場整備事業の実施に伴ない、栃久保Ａ遺跡に影響が及ぶため、事前に発掘調査を実施し記録保存を図る。

４．調査委託者　東信土地改良事務所　所長　栗田　亘

５．調査受託者　望月町　町長　佐藤幸男

６．調 査 主 体　望月町教育委員会及び教育委員会が組織する発掘調査団

７．調 査 面 積　811㎡

８．調 査 方 法　３ｍ×３ｍグリッドによる平面発掘

Ⅲ　調査団組織

顧　　問　森嶋　稔（日本考古学協会々員・千曲川水系古代文化研究所主幹）

団　　長　福島邦男（日本考古学協会々員・望月町教育委員会学芸員）

調 査 員　渡辺重義（長野県考古学会々員・軽井沢町文化財専門委員）

佐藤　敏（長野県考古学会々員・佐久考古学会々員）

近藤尚義（長野県考古学会々員・立正大学々生）

吉田　稔（埼玉考古学会々員・立正大学々生）

神津　敦（長野県考古学会々員・佐久考古学会々員）

作 業 員　桜井卯作、倉見渡、関嘉津武、吉沢浩矣、吉沢弥太郎、大森英七、福島茂子、日暮信生、永井健蔵、土屋貴高、桜井宗次、大森徳太郎、渡辺郷、岩間岩一郎、岩下あや子、若林昭枝、中山ふみ子、上野知一、比田井真知子、平林さだ、桜井きぬ子

調査事務　（社会教育係）大森睦男（係長）、高橋重雄、上野早苗、花岡一子、小林辰男、福島邦男

Ⅳ　発掘調査の経過（調査日誌）

11月４日　器材の搬入とテントの設営、グリッドの設定を行ないグリッド掘りを開始する。

11月５日　グリッド掘りにより縄文前期の土器と黒耀石のフレイクが出土する。

11月６日　グリッド掘りと遺構検出作業を行なう。住居址と考えられる落ち込みを検出する。

11月７日　遺構検出作業により３棟の住居址が確認され、第１号～第３号住居址とする。さらに住居址と考えられる落ち込みも検出する。

11月８日　グリッド掘り、遺構検出作業と共に第１号住居址の掘り込みを開始する。一辺４m程の隅丸方形で少量の土器が出土する。

11月９日　新たに２棟の住居址が確認され、第４号・第５号住居址とする。第１・２・３号住居址の掘り込みを行ない縄文前期前半の土器と黒耀石フレイクが出土する。土壙も検出され掘り込みを行なう。

11月10･11日　雨のため調査団本部にて遺物整理。

11月12日　第１号～第５号住居址及び７基の土壙の掘り込みを行なう。

11月13日　第１号～第４号住居址の掘り込みと写真撮影。第５号住居址の掘り込みを行なう。

11月14日　本日は調査を休みにしたが、遺物整理は調査団本部で行なう。

11月15日　第５号住居址の清掃を行なう。新たに住居址と考えられる落ち込みと炉址と思われる石組みが検出される。

11月16日　各土壙の清掃作業と写真撮影。また住居址及び炉と思われるものは、ちがうことがわかった。遺構全体の清掃を行ない全体写真を撮る。

11月17日　雨天のため調査団本部にて遺物整理。

11月18日　第１号～第５号住居址、７基の土壙の実測を行ない、遺構全体測量を行なう。

11月19日　調査現場と調査団本部の器材等のかたづけを行ない、本日で現場調査を終了した。

V　栃久保A遺跡の環境

栃久保A遺跡は、春日向反地籍の北西300mの蓼科山裾野の東向き斜面に位置しており、標高800mを測る。この斜面は比較的傾斜が強く、沢筋を抜って流れる多くの湧水を、自然的条件が重なりあい上方からの流れ込みによる砂礫が厚く堆積している。検出された遺構は、この砂礫層を掘り込んで構築されており、また埋没段階においても砂礫により覆われている。本年度実施された春日尾崎遺跡の調査においてもやはり砂礫の多い地域であり、同様の現象を示していた。

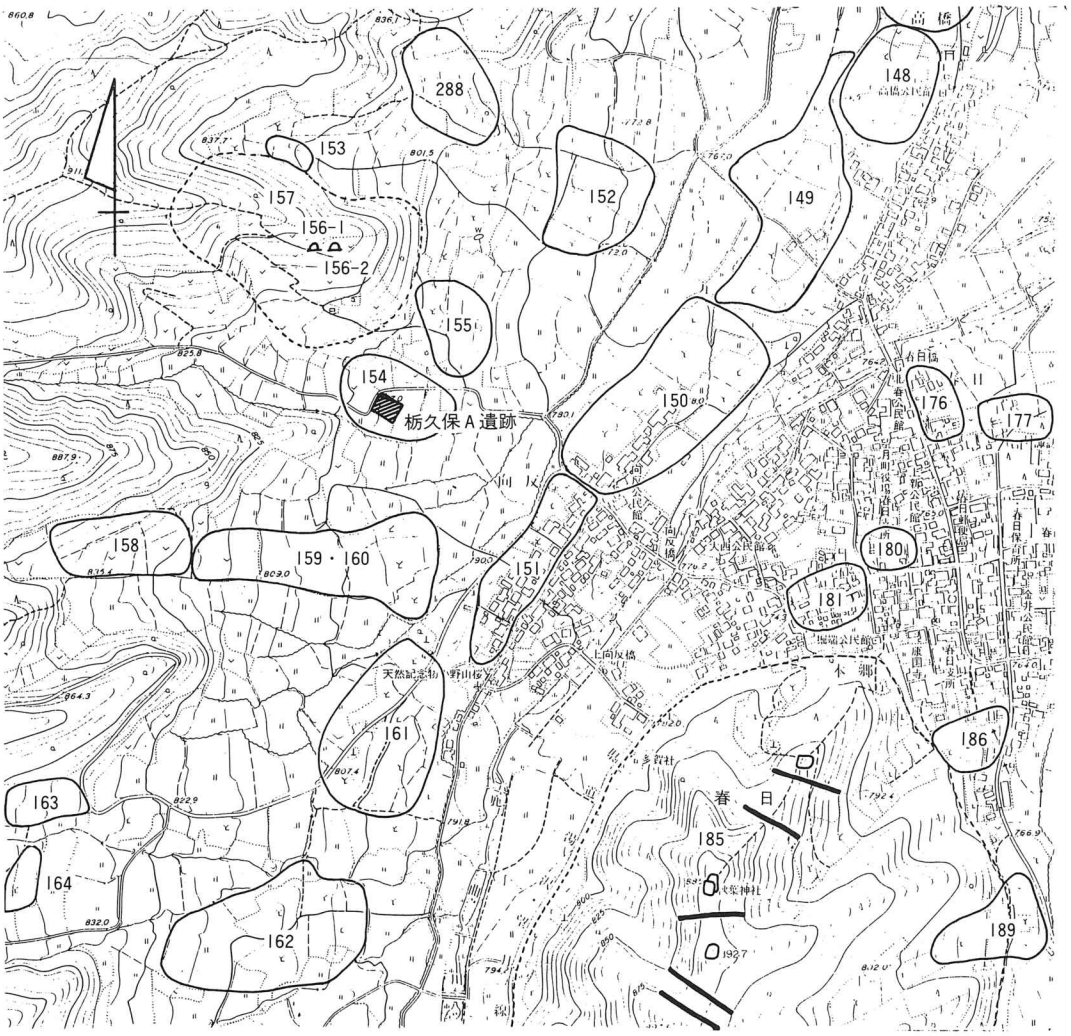
この地域一帯は、春日縄文時代遺跡群として知られているところであるが、本遺跡もその中にあって縄文時代前期初頭の数少ない遺跡の一つとして確認され、重要性は大なるものがある。昭和56年度には、金塚遺跡の調査で縄文時代早期の住居址3棟、平安時代の住居址2棟が検出され、また縄文時代初頭の資料が多数得られている。本年度、先に行なわれた春日尾崎遺跡では、奈良時代から平安時代にかかる住居址1棟、平安時代前半の住居址4棟が検出された。また後沖遺跡では、縄文時代中期初頭の住居址29棟、古墳時代初頭の住居址5棟が検出され、他に縄文中期に伴なうと考えられる土壙110基が検出されている。遺構外の遺物として縄文時代早期・前期の資料がある。さらに、昭和55年度実施の遺跡詳細分布調査の結果をみても各時代の遺跡がくまなく分布しているといえ、複合遺跡であっても縄文時代を中心とする遺跡は規模が大きく、10,000m²を越えるものが限りなく存在し、大規模集落の可能性を想定しうる。

一定地域に各時代の遺跡が存在しているということは、地域的に限定せざるを得ないということも考えられるが、本地域が他に比較して立地条件が最も整っていたと考えた方が当を得てるものと思われる。

本地域では、初めて縄文時代前期初頭の住居址が5棟検出され、今後の前期研究に重要な所見をもたらしているとともに、不明確な部分が多い時期だけに重要な課題である。

第1表　栃久保A遺跡周辺の遺跡地名表

町遺跡番号	遺跡名	大字	小字	町遺跡番号	遺跡名	大字	小字
149	後沖遺跡	春日	後沖	156－1	栃久保第1号古墳	春日	栃ノ久保
150	松原遺跡	〃	松原	156－2	栃久保第2号古墳	〃	〃
151	向反遺跡	〃	向反	157	栃久保城跡	〃	〃
152	春日尾崎遺跡	〃	桂ノ久保	158	知能遺跡	〃	知能
153	桂久保遺跡	〃	〃	159	浦谷A遺跡	〃	浦谷
154	**栃久保A遺跡**	〃	**栃ノ久保**	160	浦谷B遺跡	〃	〃
155	栃久保B遺跡	〃	〃	161	浄永坊遺跡	〃	浄永坊

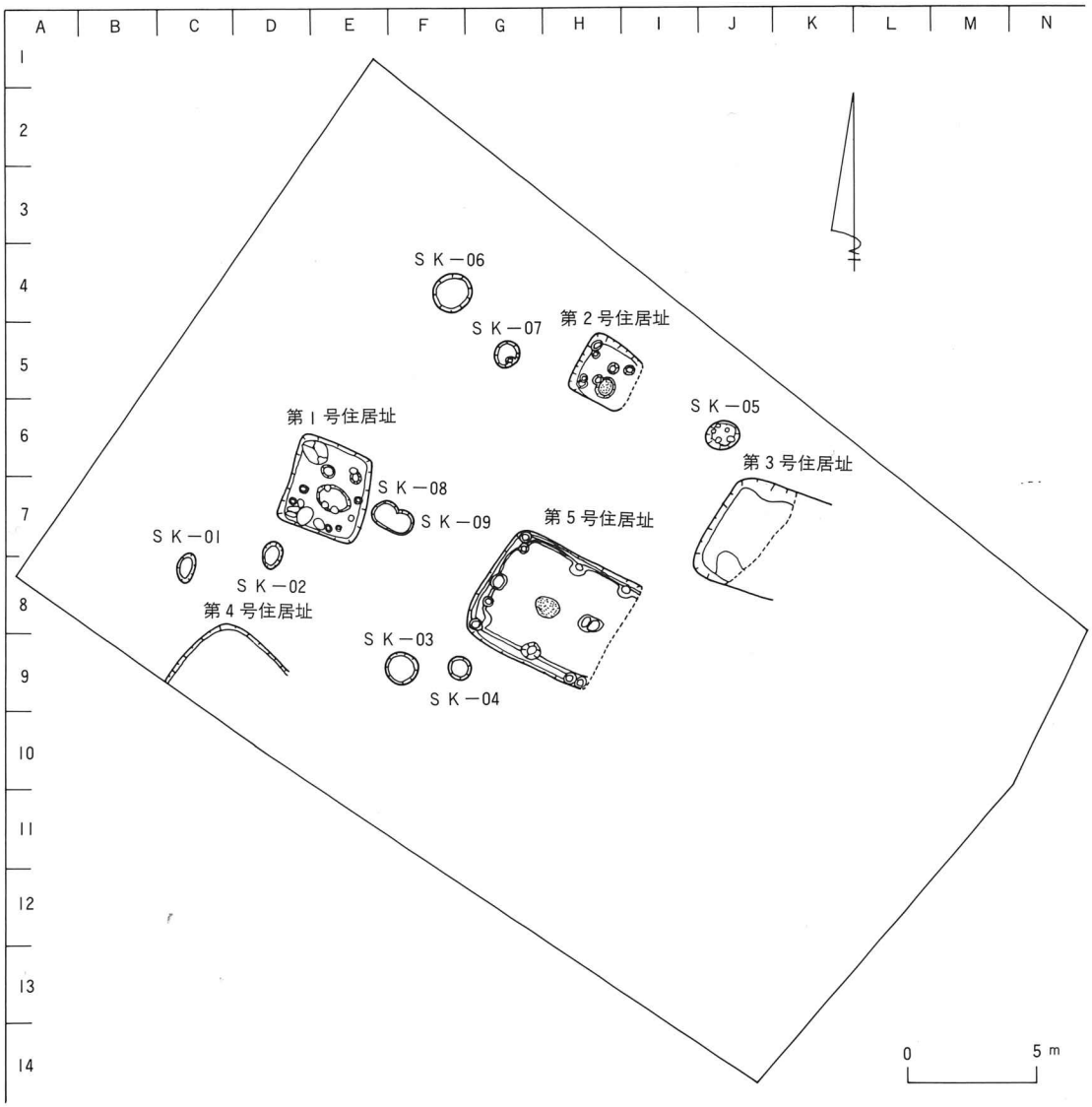


第1図　栃久保A遺跡位置図及び周辺遺跡分布図（1：10000）

町遺跡番号	遺跡名	大字	小字	町遺跡番号	遺跡名	大字	小字
162	大門先遺跡	春日	大門先	180	春日支所敷地遺跡	春日	金井
163	北入遺跡	〃	北入	181	堀端遺跡	〃	堀端
164	春日山寺A遺跡	〃	山寺	185	春日城跡	〃	ゆる久保・法憧寺 城久保・駒込・小庭
176	新小路遺跡	〃	新小路	186	法憧寺遺跡	〃	法憧寺
177	宮裏遺跡	〃	宮裏	187	小庭遺跡	〃	小庭

Ⅵ　遺構及び遺物

本遺跡で検出された遺構は、縄文時代前期初頭の住居址５棟、土壙７基がある。このうち第１号住居址と第５号住居址は、一部破壊されているとはいえ良好な状態で特に第５号住居址は構造的にも明確に様相を把握することができた。また遺物は、全体に少量ではあったが住居址の時期設定を可能にする良好な資料が得られ、さらに縄文時代初頭の興味ある土器が出土した。



第２図　栃久保Ａ遺跡遺構全体図（1：300）

1．第1号住居址

遺構（第3図・1、第1図版）

本址は、調査地域北西部のほぼ中央、D－5・6、E－5・6グリッドにかけて検出された隅丸方形の竪穴住居址である。プランは、東西3.7m、南北3.6mを測るが斜面に構築されているため、下方の東側が最も浅く2㎝、西側の最深部で33㎝を測る。床面はほぼ水平で固く締っており、床面上ないし、住居址覆土内には大小の礫が多数混入しており、埋没段階における土砂の流入を容易に据えることができる。柱穴は7個検出されたが不煎いであり、また浅い。炉址は検出することができなかったが、住居址床面中央部に1.7m－1.3mの楕円形の土壙があり、これに切られてしまったのではないかと考える。本住居址は、他の遺構と同様に、この地域の特徴である砂礫層を掘り込んで構築しているため、壁面には大小の礫が突出しており形状はあまり良くなく、また掘り込み段階から地下水が流れ出し、遺構の良好な保存状態に比較して環境があまり良いとはいえない。

遺物（第6図1～4・第2図版）

本址の出土遺物は、僅かな土器と黒耀石製の石器があるだけで、復元可能なものはなかった。1は肥厚する口縁でやや外反する。内部は比較的丁寧なナデ整形がなされ、外面には単節縄文が施文されている。2～4は無節縄文の資料であるが磨耗が激しく詳細が知れない。

2．第2号住居址

遺構（第3図・2、第1図版）

本址は、調査地域北部のほぼ中央部、G－4・5、H－4グリッドにかけて検出された隅丸のやや不定形な方形を示す竪穴住居址である。プランの南東部分は攪乱によって欠いているため正確な規模を出すことはできないが、南北2.7mを測り、東西もほぼ同様と想定できうる。壁高は最深部の西壁で26㎝を測る。床面は北西側から南東側に緩傾斜し、小礫が突出しているためあまり良好な状態ではない。炉址及び柱穴は検出することができなかった。

遺物（第8図）

石鏃が1点と他に少量の黒耀石フレイクが出土しただけであった。

3．第3号住居址

遺構（第4図・1、第2図版）

本址は、調査地域北部のI－6・7、H－6・7グリッドにかけて検出された不正方形の竪穴住居址である。第2号住居址と同様プランの南東部分が攪乱によって欠いているため全体規模を測ることはできないが、南北4.7mを測るため東西も同程度の数値と思われる。壁高は、最深部の西壁で32㎝を測る。床面はほぼ平坦であり、第2号住居址のような礫の突出はあまり目立たない。床面の中央部よりやや南寄りに長径1m、深さ30㎝の方形を呈する地床炉が検出されている。ピ

ットは合計９個検出されたが、このうち柱穴と考えられるものが５個で、中には礫を詰めたものも存在している。

遺物

本址からの出土遺物は、黒耀石のフレイクが少量のみである。

４．第４号住居址

遺構（第５図・１、第２図版）

本址は、調査地域西端部のＢ－９、Ｃ－９、Ｄ－９グリッドで検出された住居址である。本址の南西部は調査区域外で、住居址の一部がかかっていたが調査することはできず、また東南部分は耕作による破壊が行なわれ、壁及び床が存在していなかった。したがってプランの全容を知ることはできないが、残存する部分から３ｍ～４ｍの方形ないしは長方形を呈するものと考えられる。壁高は、最深部の北西で19cmを測る。床面は東南方向にやや傾斜する傾向はみられるがほぼ平坦であり、礫の突出はあまりない。炉址や柱穴は検出することができなかった。

遺物（第６図５～９、第８図、第２図版）

本址から出土した遺物は、花積下層式を主体とした土器片と石鏃１点、加工途中の黒耀石石器、打製石斧１点、磨石兼凹石、両極石器、コアー、フレイクなどがあり、他の遺構に比較して出土量は多い。

土器（第６図５～９）は磨耗が激しく保存状態が良いとはいえないが、全体に極めて多量の繊維が混入しており、整形はあまり良好ではない。石器（第８図８、19、20、21、27、28）は、各種バラエティーに富んでおり花積下層期の石器群として貴重である。

５．第５号住居址

遺構（第５図・２、第２図版）

本住居址は、調査地域中央部のＦ－７・８、Ｇ－６・７・８、Ｈ－７・８グリッドにかけて検出された、隅丸の長方形を呈する竪穴住居址で、東南部壁面を耕作等により破壊されているが、本遺跡で検出された住居址の中では、構造を最も明瞭に把握することができる。プランは、東西5.5m、南北4.5m、壁高最深部で39cmを測る。東南部は壁を欠いているが、柱穴と床面により十分に規模を想定しうる。床面は北西部から南西部にかけて僅かに傾斜しているが比較的平坦であり礫の突出はあまりみられない。炉址は、住居址のほぼ中央部に位置し、長径85cm、深さ15cmの楕円形を呈する地床炉である。内部には多量の焼土が堆積し、また炉址から北西部の壁面下の床面上に焼土の散乱が確認できた。柱穴はコーナー部４ヶ所と、壁の中央部４ヶ所の計８ヶ所に検出され、このうち４ヶ所では柱の立て替えと考えられる柱穴がそれぞれ１個づつ検出されており、これらを含めると８ヶ所に12個検出したことになる。これらの柱穴は、かなり企画性をもって構築されており、それぞれ壁に平行ないしは垂直に結ぶと交点は炉址上でほぼ直角となる。極めて

重要な所見であると考える。北東部の壁部を除く他の３ヶ所には幅30～50cm、深さ８～20cmを測るかなり規模が大きな周溝が存在している。床面が北東部方向に傾斜しているため、その部分には周溝は必要なかったということも容易に判断することができる。本址の時期は遺物からみて花積下層式期と考えられ、類例の少ない本期の住居址としては大変貴重な所見を提示しているものである。

遺物（第６図10～12・第２図版）

本址出土遺物は、少量の土器片と黒耀石フレイクが出土しただけである。第６図10・11は、胎土に多量の繊維とパミス状の白色石粉、黒耀石粉が混入し、外面赤褐色、内面黄褐色を呈する焼成やや脆弱な資料である。外面には無節のＲ縄文が施文され、内面には指頭による整形の後櫛歯状工具によると思われる条痕が全体に施されている。早期から前期初頭に位置づけられるものと思われる。

６．第１号土壙（第４図・２、第１図版）

Ｂ－７グリッドで検出され、長径120cm、短径75cm、深さ29cmを測る楕円形を呈している。遺物は何も出土していない。

７．第２号土壙（第４図・３、第１図版）

Ｃ－６・７、Ｄ－６・７グリッドにかけて検出された。長径115cm、短径80cm、深さ25cmを測り、楕円形を呈している。遺物は何も出土していない。

８．第３号土壙（第４図・４、第１図版）

Ｅ－８、Ｆ－８グリッドで検出され、長径120cm、短径100cm、深さ５cmを測り、楕円形を呈している。遺物は黒輝石フレイクが少量出土している。

９．第４号土壙（第４図・５）

Ｆ－８グリッドで検出され、径100cm、深さ25cmを測る円形を呈している。遺物は何も出土していない。

10．第５号土壙（第４図・６、第１図版）

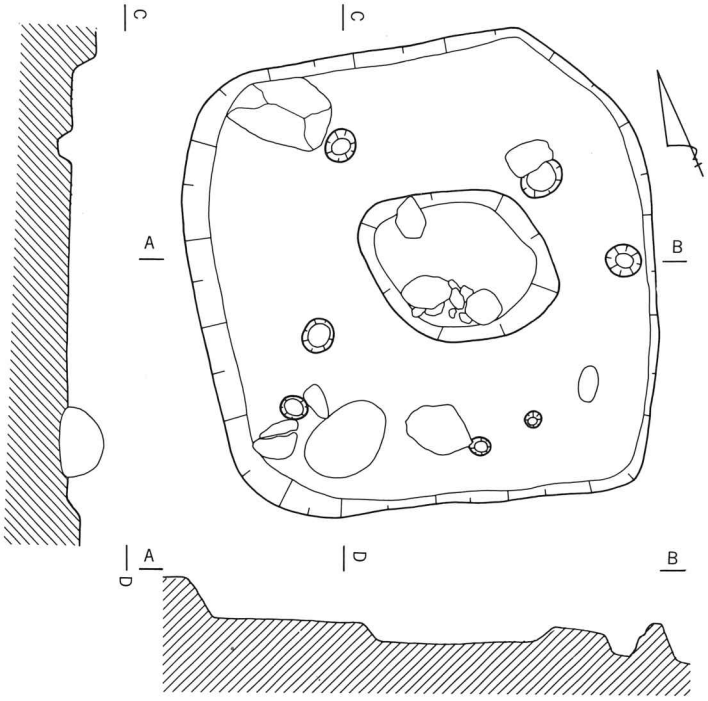
Ｉ－３グリッドで検出され、長径115cm、短径105cm、深さ15cmを測る楕円形を呈している。内部には礫が混入している。遺物は何も出土していない。

11．第６号土壙（第４図・７、第１図版）

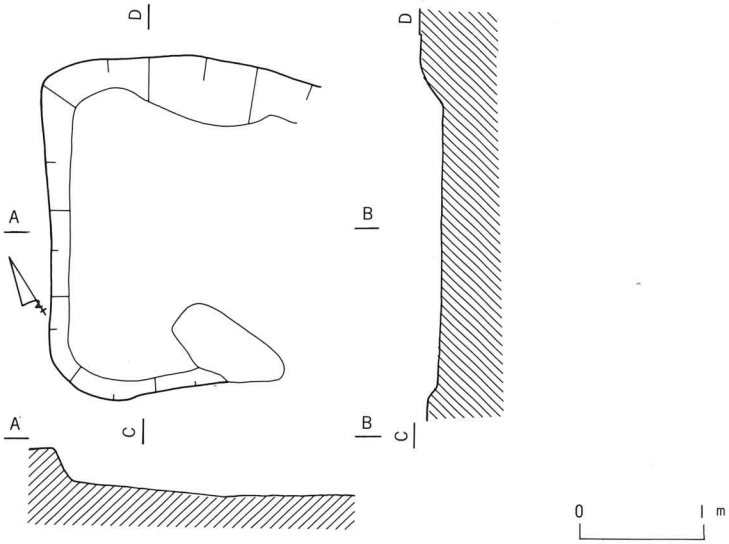
Ｅ－３、Ｆ－３グリッドで検出され、径150cm、深さ42cmを測る円形を呈している。遺物は何も出土しなかった。

12．第７号土壙（第４図・７、第２図版）

Ｆ－４グリッドで検出され、径110cm、深さ12cmを測る円形を呈しており、内部に小ピットが存在している。遺物は何も出土していない。

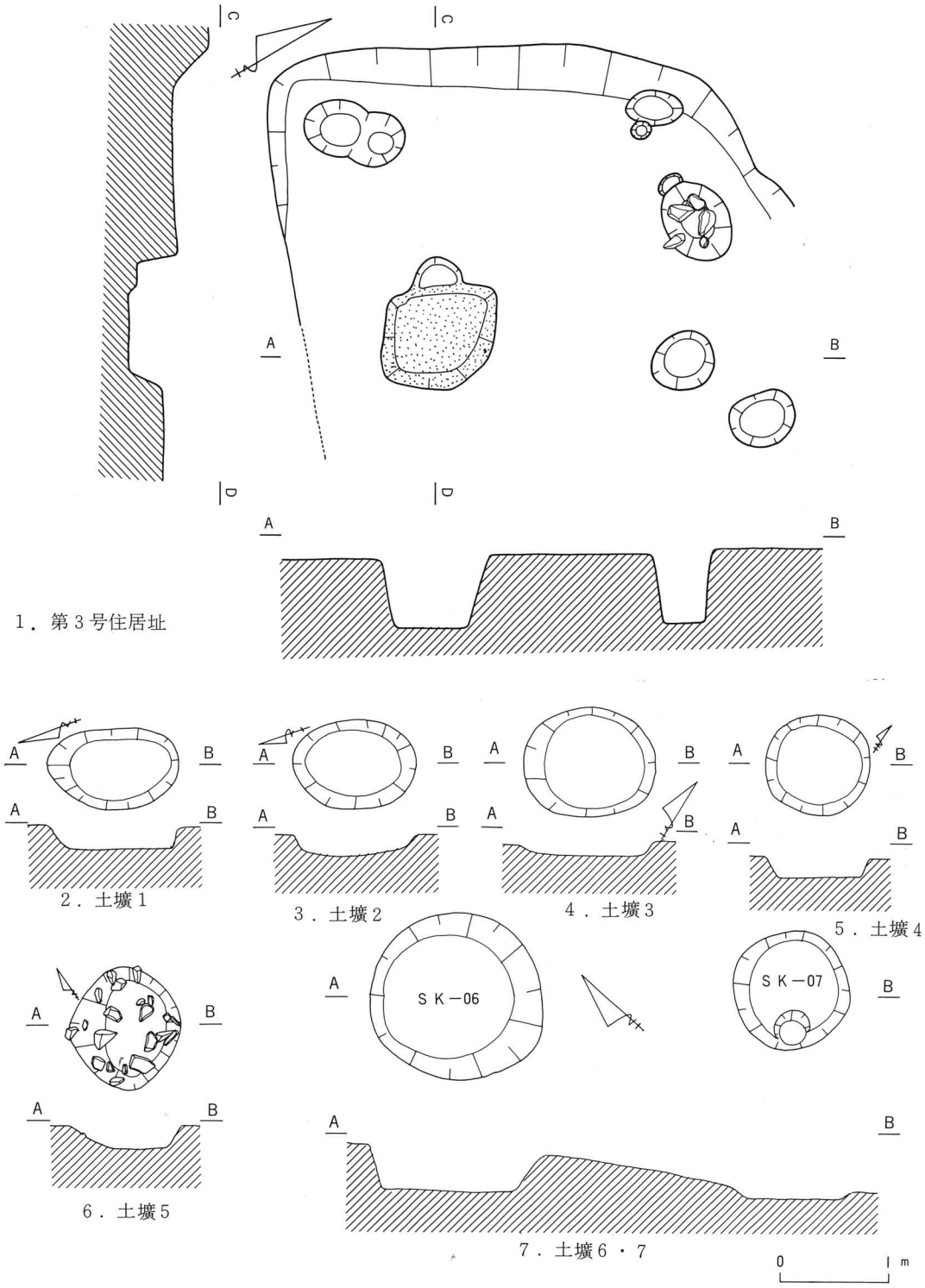


1．第１号住居址

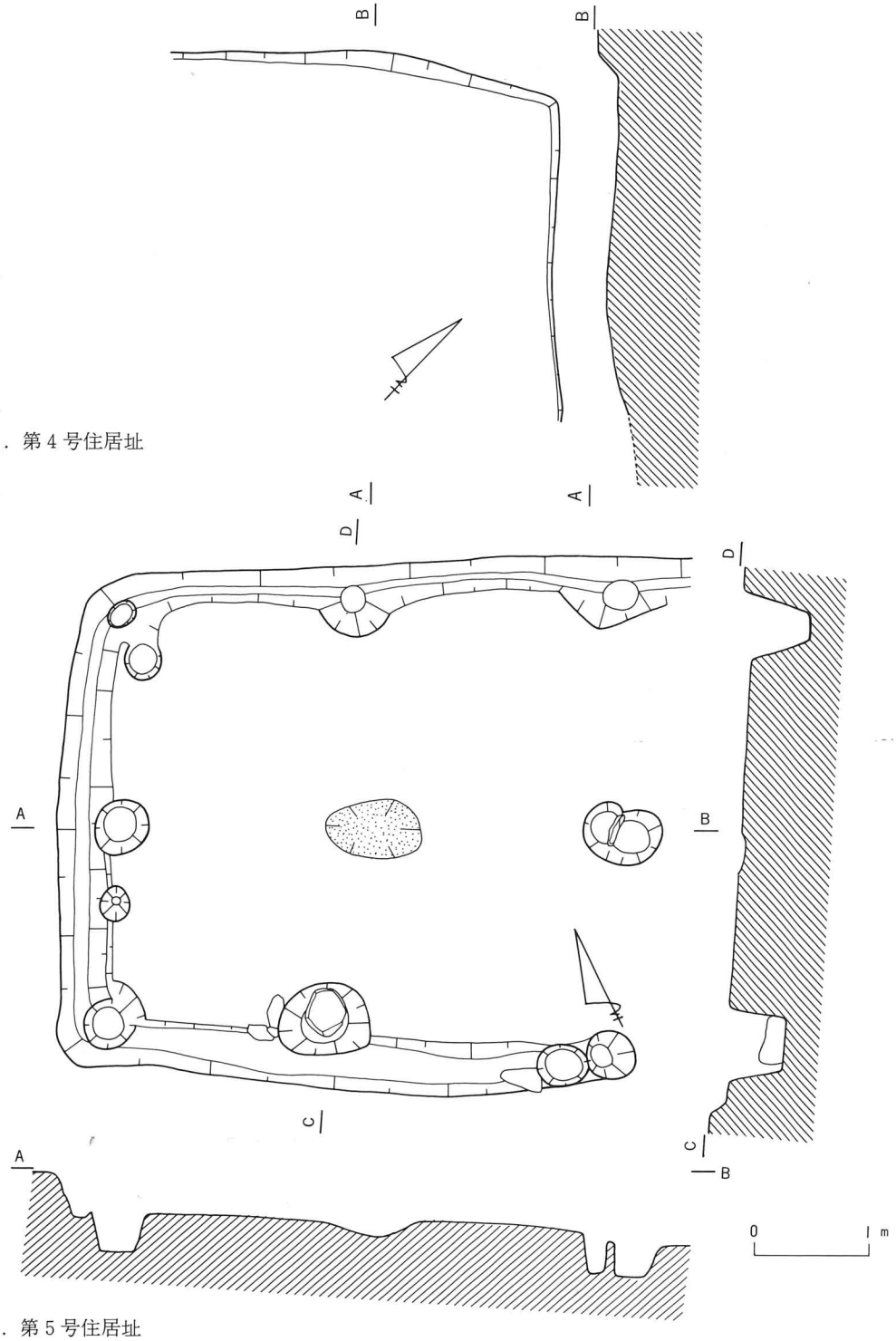


2．第２号住居址

第３図　栃久保Ａ遺跡第１・２号住居址実測図（１：60）



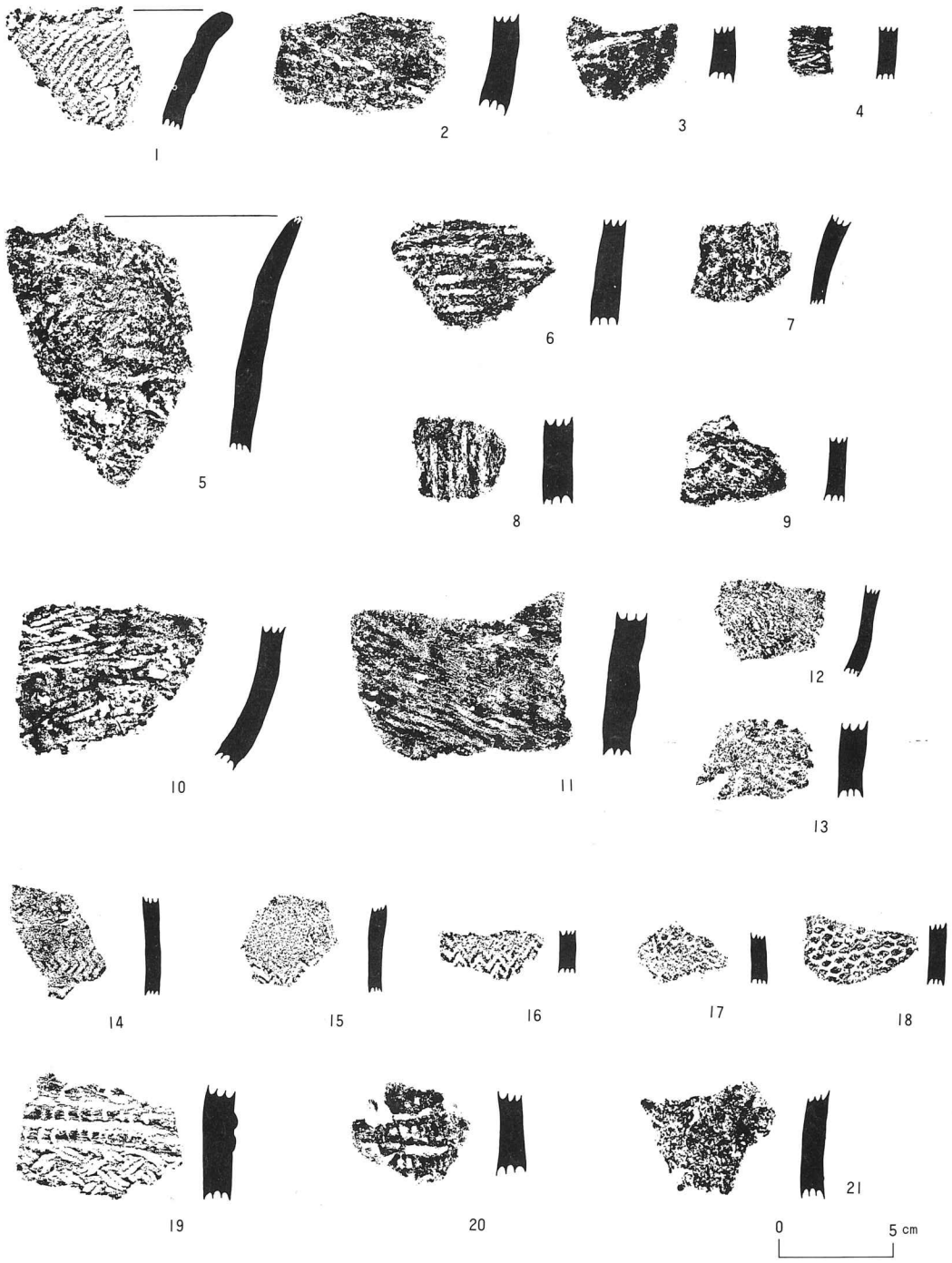
第４図　栃久保Ａ遺跡第３号住居址土壙１～７実側図



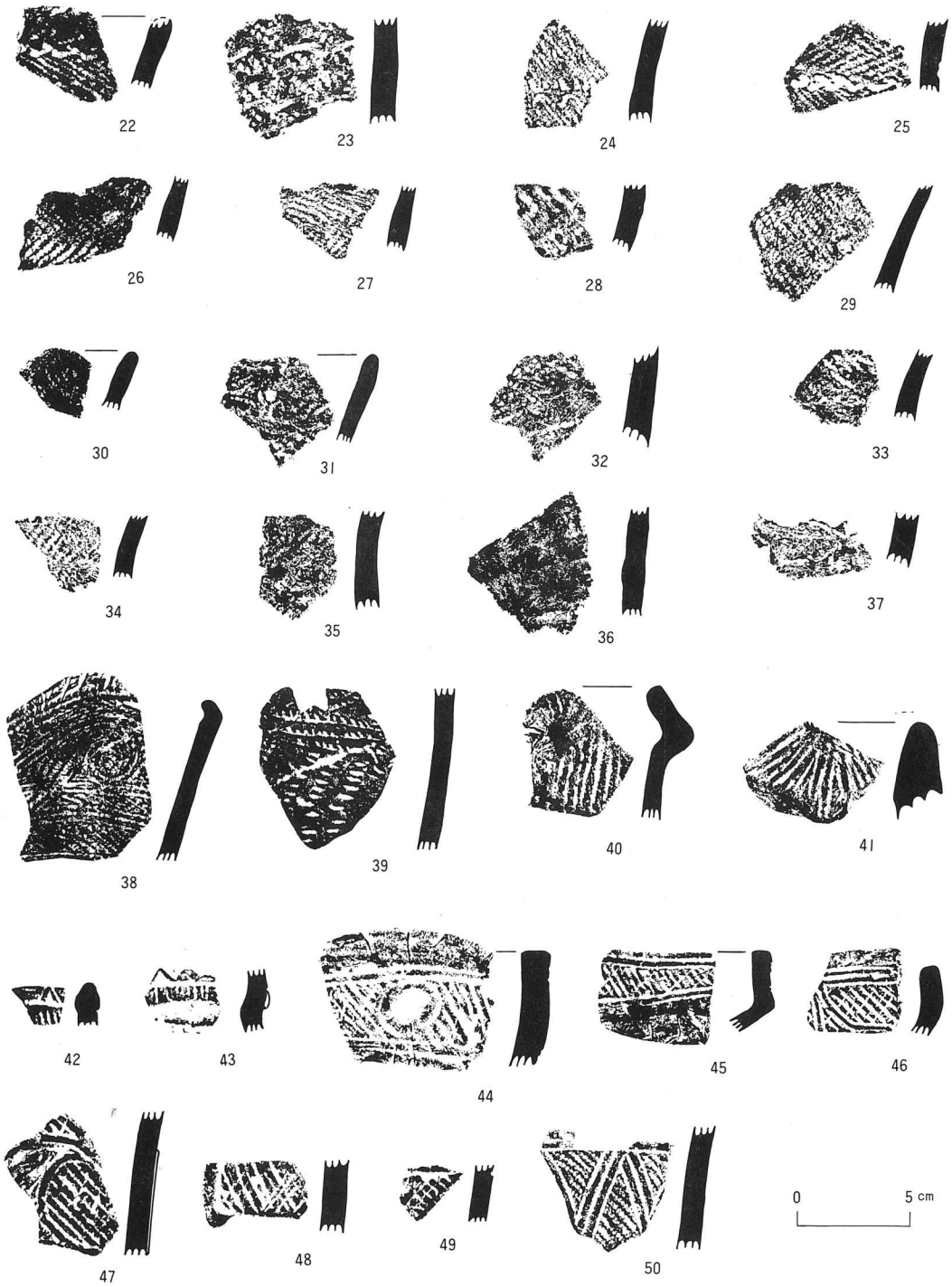
1．第４号住居址

2．第５号住居址

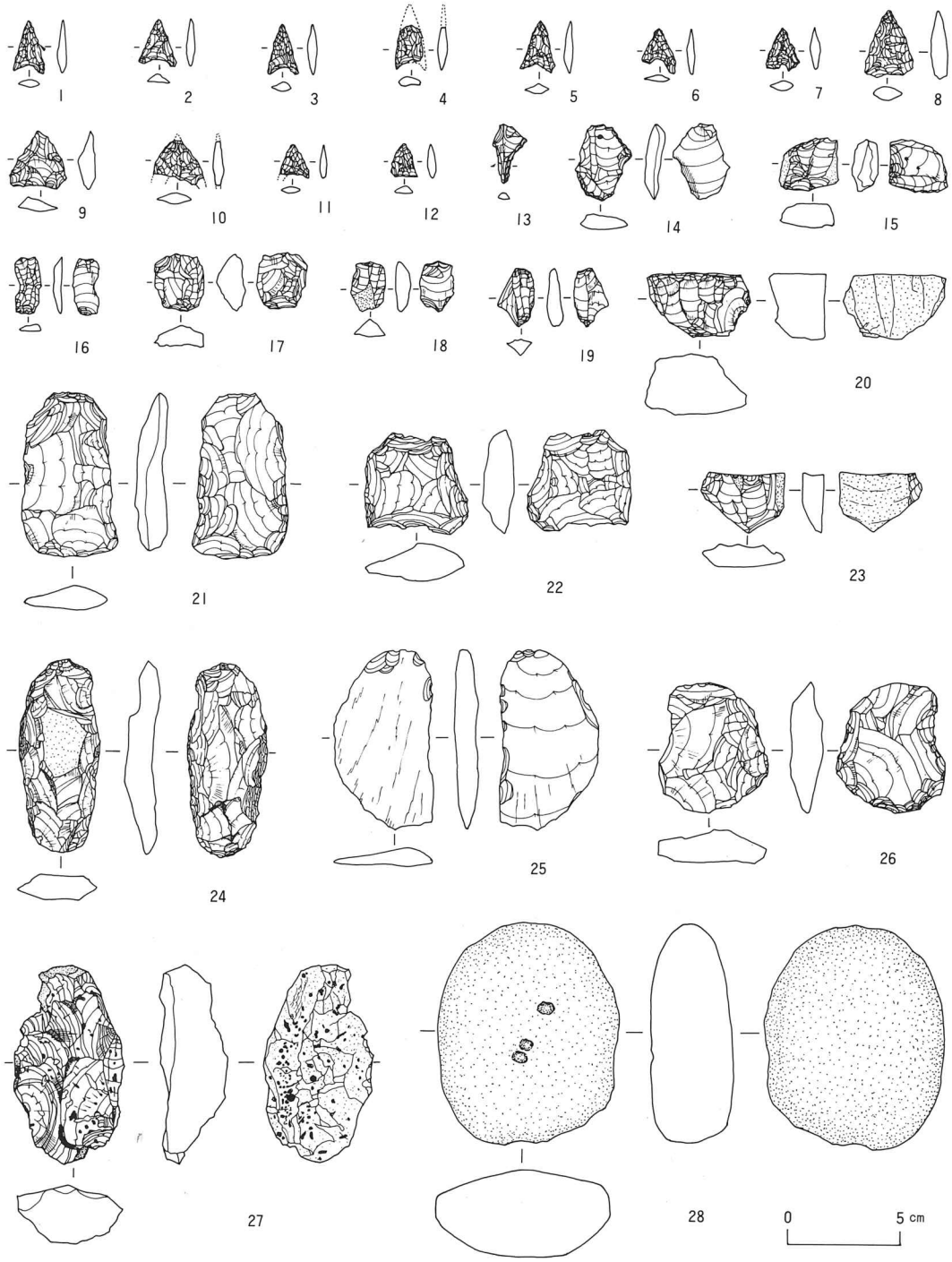
第５図　栃久保Ａ遺跡第４・５号住居址実測図（１：60）



第６図　栃久保Ａ遺跡出土遺物拓本（１～４：１住、５～９：４住、10～12：５住、13～20：グリッド）（１：３）



第７図　栃久保Ａ遺跡出土遺物拓本（グリッド）（１：３）



第８図　栃久保Ａ遺跡出土石器実測図（１：３）

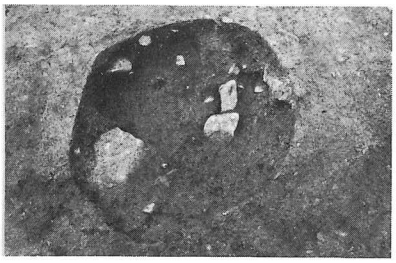
第1号住居址

第2号住居址

第3号住居址

土壙1

土壙2

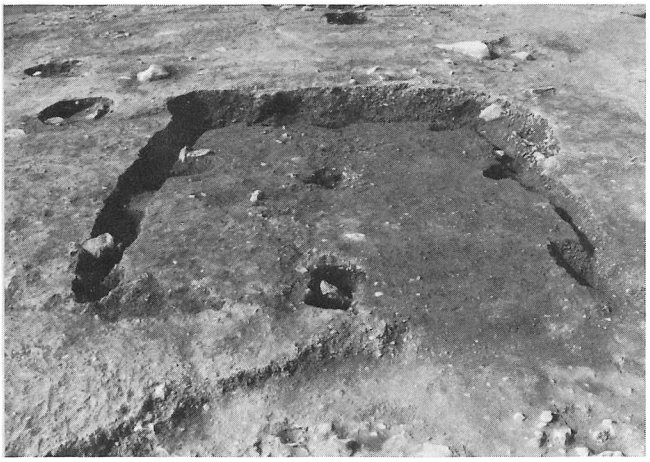


土壙3

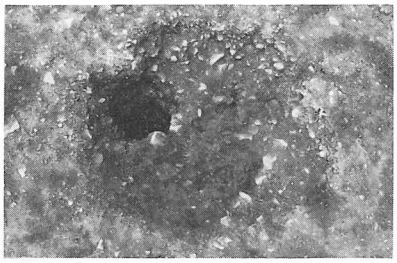
土壙5

土壙6

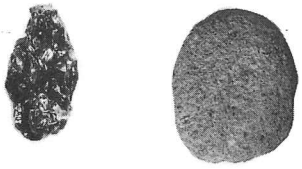
第 4 号住居址

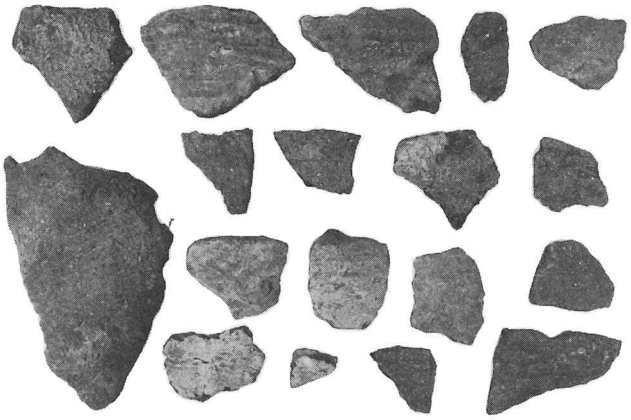


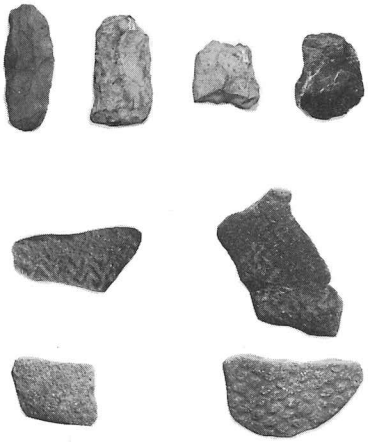
第 5 号住居址



土壙 7







第三図版　土器

望月町文化財調査報告書　第12集

栃久保A遺跡

発行　1983年11月20日

東信土地改良事務所

望月町教育委員会

印刷　ほおずき書籍株式会社